



洋上アルプス

No.274 平成30年1月5日

発行 林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊本郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



チーム屋久島で森林・林業・木材産業の復活を



屋久島森林管理署 署長 川畑 充郎

新年、明けましておめでとうございます。平成30年の新年を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

我が国の森林は、水源のかん養、災害や地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、我々の生命

や暮らしに不可欠な様々な恵みをもたらしてくれているとともに、戦後我々の先人達が植えてきた人工林が成熟期を迎え、再生可能な国産資源として本格的に利用していく好機が到来しています。

このような中、屋久島の人工林材である屋久島地杉を取り巻く状況は、資源の充実に加えここ数年間でチップ工場の再稼働や新たな加工施設の稼

働とともに、屋久島町の新庁舎建設や屋久島地杉販売プロジェクトの開始、さらに昨年には海上輸送交付金の開始や苗木生産協議会が設立されるなど、多くの関係者のご努力により屋久島地杉の育苗から保育、生産、加工、流通、販売までの一貫した体制が整い、まさしく屋久島の森林・林業・木材産業の復活への扉が開きました。

最後に、本年が皆様にとって良い年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

森林生態系の保全と利用



屋久島森林生態系保全センター 所長 古市 真二郎

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆様から屋久島森林生態系保全センターに対して格別のご支援・ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年4月に着任以来、「縄文杉」「龍神杉」「黒

味岳」原生自然環境保全地域など森林パトロールを早々に行い、世界自然遺産地域に相応しい屋久島の素晴らしい自然景観や貴重な森林生態系を実感するとともに、これらを将来にわたってしっかりと維持していくことが重要と改めて感じています。そのためにも、屋久島の特別な森林生態系の一つである亜熱帯植生から亜高山帯植生まで連続して見られる植物の垂直分布の

モニタリングや、ヤクシカによる湿原植物の被害等が原因で湿原の状況が変わりつつある「小花之江河」の植生回復調査等をしっかりと継続し、関係機関とも連携して、貴重な森林生態系や素晴らしい自然景観の保全について取り組んで参りたいと考えています。

また、年間約16万人（H28）が訪れる屋久島自然休養林は、ピーク時の入林者数には及ばないものの、外国人入林者は増加傾向にあることから、これまで以上の安全・安心のための施設整備と誰にもわかりやすい絵文字（ピクトグラム）などを使った案内等について、レクリエーションの森保護管理協議会とも連携して、利用しやすい環境づくりに取り組んで参りたいと考えていますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

今年も皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

マスコミ社長会を局長案内

11月28日～29日



熊本県内にあるマスコミ関係の代表者で構成する「在熊マスコミ社長会」6名の方々が、原田隆行九州森林管理局長の案内で屋久島を訪問されました。この屋久島視察は、情報発信の重要性から常日頃より原田局長がマスコミ関係者と意見交換等を進めている中で、社長会からの要請に応じて局長自らが案内されました。

1日目は、川畑署長、古市所長、永山自然再生指導官が同行して、白谷雲水峡と屋久島地杉加工センターを案内しました。白谷雲水峡では、屋久杉と照葉樹、アニメの「もののけ姫」のイメージとなった珍しいコケ類等に覆われた林内を散策されました。

2日目は、60mの落差のある千尋の滝、池田造園建設の苗畑、ヤクスギ土埋木を保管している安房貯木土場、屋久島の自然環境や屋久杉のすべてがわかる屋久杉自然館、本年5月に林業遺産に認定された森林軌道、ヤクスギランドを案内しました。森林軌道では、山邊総括森林整備官と川野森林整備官が、森林軌道の現況や本年8月に地元の警察・消防と締結した協定等の説明を行い、実際にモーターカーに試乗してもらいました。

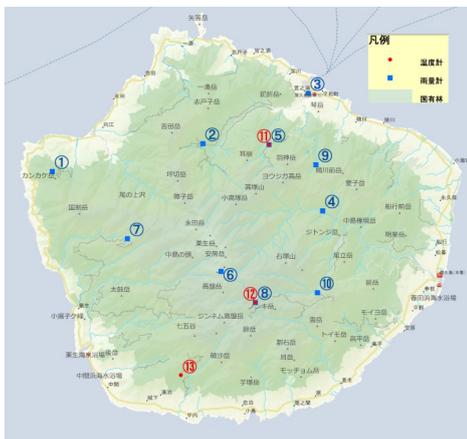


森林軌道の現状を説明

今回の視察を通じて社長会の方々から、「国有林の取組がよく理解出来た」、「屋久島の自然に感動した」等の感想を頂きました。

屋久島森林管理署及び保全センターとしては、引き続き屋久島内外の方々の視察を積極的に受け入れて「国民の森林・国有林」の情報発信を行うとともに、テレビ・新聞等のマスコミの方々に国有林の取組を取材してもらおうように努めていく考えです。

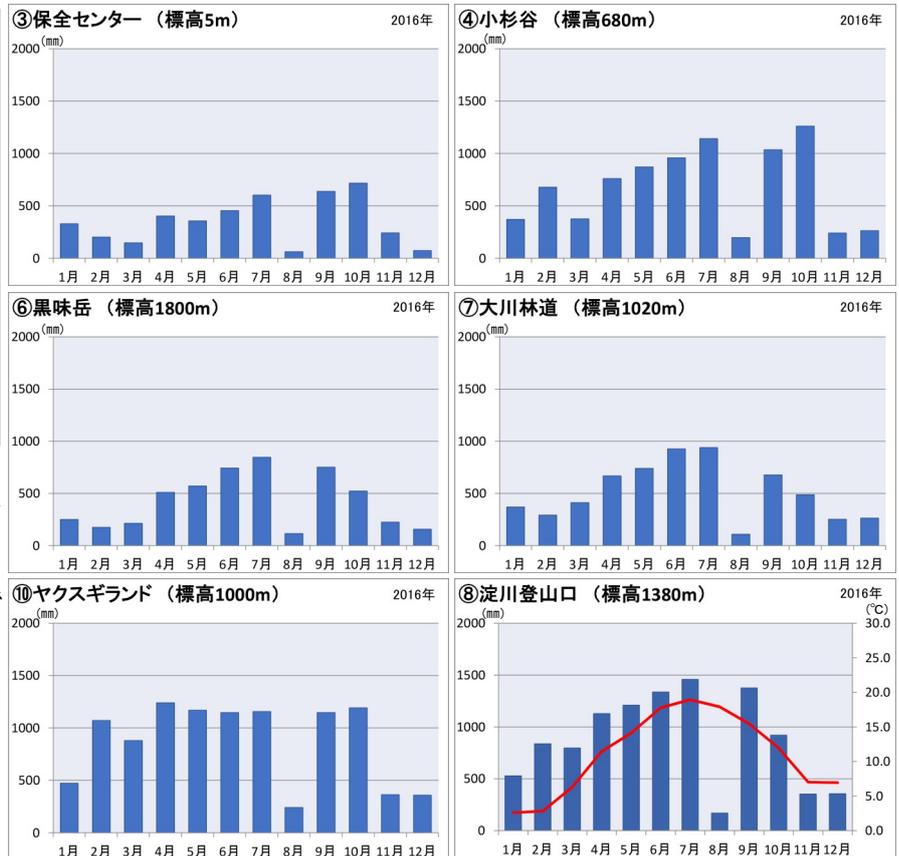
気象観測データ



2016年の代表的箇所の間年雨量データです。

屋久島中央部の標高1000m付近で雨量が多くなっています。

*この雨量及び温度観測は気象業務法第6条1項1の研究のために行う気象の観測となっています。



～屋久杉と共に～ 小杉谷と森林軌道 (第1回)

佐々 彰聰 (屋久杉自然館 館長)

生命線としての森林軌道

小杉谷は、コスギダニと読み通称コスギダンという。

それは屋久島の「森の心臓部」にあたる場所であった。

安房川河口から上流へ約16^{キロ}、急峻な山中にあって谷の西側には、九州最高峰宮之浦岳がそびえ、主峰から高塚山へと連なる稜線が北西の風から谷を守っている。さらに翁岳、黒味岳、そして石塚山、太忠岳へと続く稜線によって谷の反対側もしっかりとガードされていた。

そこには、年間降水量8,000^{ミリ}とも10,000^{ミリ}ともいわれる雨がザーザーと降り注いだ。その雨がスギやモミ、ツガなど様々な緑を育んだ。もちろん谷に降り注いだのは雨ばかりではなかった。東へ向かって大きく開かれた窓からは光があふれだし、冬には1^{メートル}を超える積雪が谷をおおった。

1923 (大正12) 年、森林軌道は完成した。安房—小杉谷間16^{キロ}。幅員2^{メートル}、レール幅76^{センチ}。平均勾配4^{パーセント}。24の橋梁と16のトンネル。

レールは敷かれ、屋久島国有林開発の拠点、小杉谷事業所の歴史が始まった。小杉谷の歴史は、森林軌道をぬきにしては語ることはできない。閉鎖された山の中の集落に暮らす人々にとって森林軌道—それはまさしく「生命線」であった。

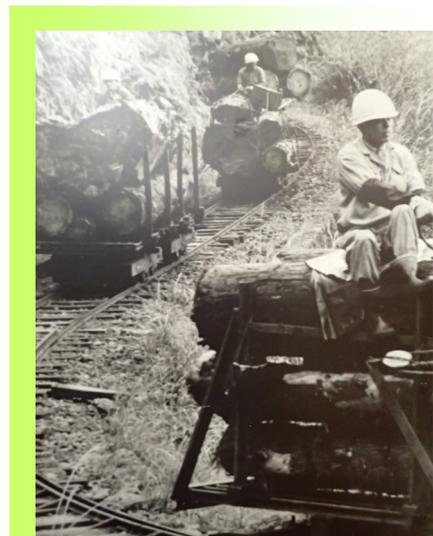
伐採された木材の搬出はもちろん、食料や日常の必需品の運搬、電源開発の資材の輸送。あるいは町のニュースや文化を運び、時にはケガ人や病人を乗せて走る。そしてときには花嫁を乗せたかと思えば、トロッコの中では赤ちゃんも生まれた。

「生命線」は、喜びの右のレールと悲しみの左のレールの上を、上がったたり下ったり忙しかったが、それはまた、遙かな年月をかけて作り出された深い深い森にとっても、重大な「生命線」であった。

花形トコの運材手と「堀田式ブレーキ」

交わることのない平行線の上を、長さ1.5^{メートル}のトコが12から13台の等間隔で材を満載して下る眺めは実に壮快だった。トコは自力で下るのでロープを引っ張るブレーキ操作だけで行く。実際には言葉で表現できないような微妙な「カン」が必要でまさに命懸けの仕事。当時、地元にある素材を使って改良されたのが「堀田式ブレーキ」でヤマグルマという木を台にして、その中に花崗岩の石を詰め、それをレールと車輪に当てて、その摩擦でトコを停止させる方法で「小杉谷型」といわれる改良された独特のものであった。

また、それに乗っていた人たちは、誰にも真似のできない特殊技術者としてのプライドを持ち当時の花形だった。機械化の波により、運材班のトコも過密ダイヤになったが、安全運行に当時神経を使った影の仕事人である保線手を忘れてはならない。(つづく)



連なって下るトロッコ

昨年5月、「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」が、日本森林学会により林業遺産に認定・登録されました。今月号から3回にわたり、認定対象地の一つである小杉谷地域について詳しい屋久杉自然館の佐々館長に執筆いただくこととしました。



高層湿原における植生分布状況等に関する調査（平成27年度）

1. 土砂堆積量や水域環境の状況調査（小花之江河）

[湿原の変化]

小花之江河における環境の外観の変化を、図に示す。写真下部に見られるように、全体的に湛水域の陸地化が進行している。また湿原内にはヤクシカの足跡や糞が多数確認された。



図. 小花之江河の状況 (左:平成18年11月 中:平成22年11月 右:平成27年11月)

[土砂堆積量・水域環境]

小花之江河における土砂堆積地の面積と堆積量を、表1に示す。

平成27年度調査の結果、土砂堆積の箇所数は平成22年度調査と比較すると7箇所増加し、過去最高であった。また面積や量については約3倍の増加となった。また、流路(溜池も含む)や湛水域の面積は、表2に示す。

小花之江河は、平成22年度調査から流路・溜池の面積が1.7%減少したが、湛水域の面積は1.3%増加した。

表1. 小花之江河における土砂堆積地の面積及び堆積量の推移

	土砂堆積地			ヤクシカ 踏跡荒廃地
	箇所数	堆積面積	堆積量	
H18	7箇所	20.7㎡	1.04㎡	0箇所
H22	5箇所	20.1㎡	1.01㎡	1箇所
H27 (H22からの増減率)	12箇所	61.6㎡ (3倍)	3.08㎡ (3倍)	1箇所

表2. 小花之江河における流路・湛水域の面積の推移

	流路・溜池		湛水域		木道		その他		計	
	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)	面積(㎡)	率(%)
H18	511.9	20.0	846.6	33.1	58.4	2.3	1,143.5	44.7	2,560.4	100
H22	574.7	22.4	746.5	29.2	58.4	2.3	1,180.8	46.1	2,560.4	100
H27	528.9	20.7	780.5	30.5	58.4	2.3	1,192.6	46.6	2,560.4	100

2. 土壌（堆砂や泥炭）の状況調査（小花之江河）

各プロットとも土壌状態は過年度とほぼ同様であると考えられる。

清掃活動で地域に貢献する中学生

11月28日、ヤクスギランドにおいて、屋久島町立安房中学校3年生30名が参加し、ボランティア清掃活動を行いました。

今回の清掃活動については、総合的な学習の一環として、生徒自身が地域に貢献出来る活動を検討、生涯に亘って郷土を愛し、郷土の発展に寄与する心情を養うことを目的にヤクスギランドの清掃ボランティアを計画しました。

清掃活動当日は、気温12度、天候は曇りと作業には適した条件のもと、50分コース（荒川歩道～仏陀杉歩道）の木道と手摺りの苔落とし作業を、3班に分かれて実施しました。

ヤクスギランドは、白谷雲水峡と並ぶ自然休養林の一つで、年間6万人を越える入林者が訪れ、樹齢千年を越える屋久杉はじめとする貴重な自然を堪能しています。

同時に、年間一万ミリにも達する雨量は苔の繁殖を助長し、木道などに生える苔は入林者が移動時に滑るなどの危険性を含んでいます。

今回のボランティア清掃活動は、ヤクスギランド内の景観維持はもとより、歩道の安全確保に努めるなど、大きく貢献する結果となりました。



苔落とし作業中